

Contents

イントロダクション

- Contents／編集方針 1
- Management Philosophy & Brand 2
- History 3
- At a Glance 5
- 3PL事業 7
- フォワーディング事業 9
- 重量機工事業 10

トップメッセージ

- CEOメッセージ 11
- CFOメッセージ 15

価値創造力の最大化

- ロジスティードグループの価値創造プロセス 19
- ロジスティードグループの強み 21
- 前中期経営計画「LOGISTEED2024」の振り返り 23
- 新中期経営計画「LOGISTEED2027」 25
- ロジスティードグループのDX 29
- 社員座談会 31
- 人的資本への取り組み 35
- 知的資本への取り組み 39

サステナビリティの追求と 価値創造基盤の強化

- サステナビリティガバナンス 41
- ロジスティードグループのマテリアリティとKPI 43
- 役員紹介 49
- コーポレートガバナンス 51
- コンプライアンス／情報セキュリティ 53
- リスクマネジメント 54
- 環境マネジメント 57
- 環境中長期目標2030／2050 58
- 気候変動に対する取り組み 59
- 生物多様性・自然関連課題への取り組み 61
- 注力分野 1 63
- 注力分野 2 65
- 注力分野 3 66
- 注力分野を支える基盤 67

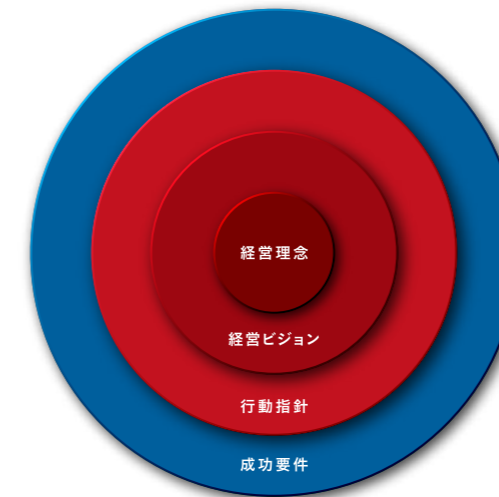
会社概要・用語集

- 会社概要／主なグループ会社一覧 69
- 用語集 70

Management Philosophy & Brand

ロジスティードグループは、経営理念である「広く未来をみつめ 人と自然を大切にし 良質なサービスを通じて 豊かな社会づくりに貢献します」のもと、高度化・多様化・広範化しているグローバルサプライチェーンにおいて、お客様・投資家・従業員などあらゆるステークホルダーから、最も選ばれるソリューションプロバイダとなることを経営ビジョンとして掲げ、さまざまな『協創』を通じた課題の解決と『価値』の創出に取り組み、持続的な成長を実現していきます。また、経営理念、経営ビジョンの具現化に向け、当社グループのあり方と進むべき道を「LOGISTEED WAY」として体系化しています。

LOGISTEED WAY



経営理念

ロジスティードグループは 広く未来をみつめ 人と自然を大切にし 良質なサービスを通じて 豊かな社会づくりに貢献します

経営ビジョン

グローバルサプライチェーンにおいて最も選ばれるソリューションプロバイダ

行動指針

- コンプライアンス 基本と正道を大切にしよう
- カスタマーフォーカス お客様に価値を届けよう
- イノベーション&エクセレンス 革新と卓越性を協創しよう
- ダイバーシティ&インクルージョン 多様性を活かし共に成長しよう
- サステナビリティ 地球の未来を考え行動しよう

成功要件

- 「現場力」 × 「見える化」
- 3つの追求 安全・品質・生産性
 - 3つのこだわり 細部・顕在化・スピードにこだわる
 - 3つの信条 顧客志向・チームワーク・チャレンジ精神

財務情報	IR情報 (Webサイト)		● 有価証券報告書		● 決算説明資料	
非財務情報	企業情報 (Webサイト)		● サステナビリティ (Webサイト)		● 会社概要 (Webサイト)	

統合報告書 (冊子・PDF)

編集方針

ロジスティードグループは、従来のアニュアルレポートに代わり、2020年度版より統合報告書を発行しています。当統合報告書は、ステークホルダーの皆様へ「再上場を見据えた当社グループの企業価値最大化」について、「価値創造力の最大化・サステナビリティの追求と価値創造基盤の強化」をコアストーリーとして、価値創造プロセスやビジネスモデルを説明しながら、持続的な企業価値向上の取り組みを紹介しています。なお、編集にあたっては、IFRS財団の「国際統合報告フレームワーク」や経済産業省の「価値協創ガイダンス 2.0」を参考にしています。

報告対象期間

2024年度(原則として2024年4月～2025年3月)
ただし、活動に関しては、直近の活動も報告しています。なお、「年度」は3月31日に終了する会計年度をさしています。

報告対象組織

当統合報告書は、原則、ロジスティード(株)および当社グループ(連結子会社、持分法適用関連会社)を対象としています。なお、当社は、2024年3月1日付でロジスティード(株)(同年3月1日付でLマネジメント(株)に商号変更)から同社の全てを事業を承継しているため、同社グループの内容を含めて記載しています。

将来見通しに関する注意事項

当統合報告書には、ロジスティード(株)および当社グループの業績見通し、目標、計画ならびに経営戦略に関する将来の見通し、予想等が含まれています。これらの将来見通しに関する記述は今後の業績を保証するものではなく、さまざまなリスク、不確実性を含んでおり、今後の実際の決算や業績、到達度や財政状態は、これらが示唆するものと大きく異なる可能性があります。

ブランドプロミス

未知に挑む。

大きく変化する世界の中で、常に先を見つめて、道を切りひらき、社会に新しい活力を届けていきたい。

私たちは、お客様と真摯に向き合い、最善を尽くし、共に未来を協創する。これからのテクノロジーを新しいソリューションの力にする。一人ひとりの人間力を大切にして、ひとつになって動きつづける。

私たちはこれまでのロジスティックスの領域を超えて、ビジネスと生活に新しい未来を実現していく。

ビジネスコンセプト

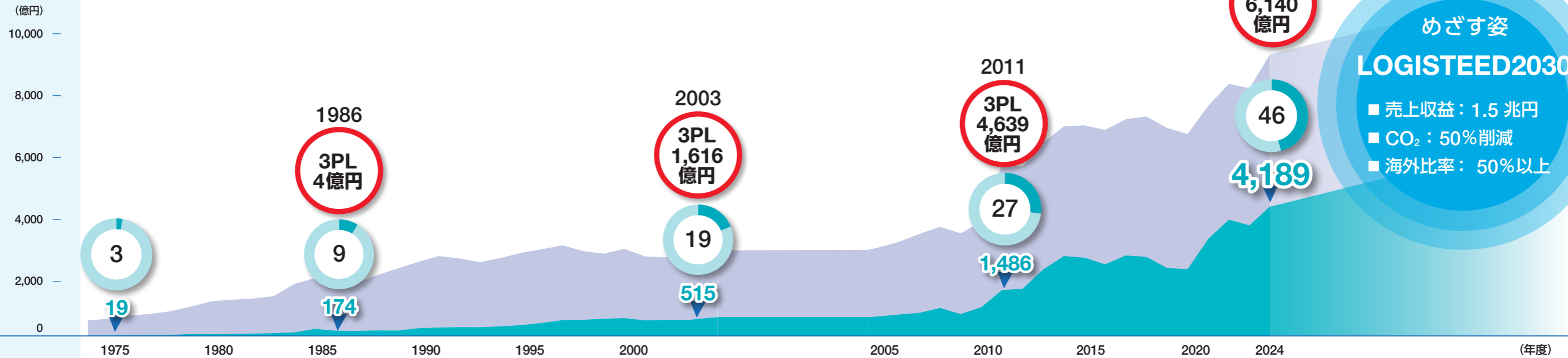
物流は新領域へ LOGISTEED

LOGISTICSと、Exceed、Proceed、Succeed、そしてSpeedを融合した言葉であり、ロジスティックスを超えてビジネスを新しい領域に導いていく意思が込められています。

History

売上収益の推移

- 国内物流 (億円)
- 国際物流 (億円)
- 3PL事業 (億円)
- 国際比率 (%)



めざす姿 LOGISTEED2030

- 売上収益: 1.5 兆円
- CO₂: 50%削減
- 海外比率: 50%以上

時代背景



価値創造の変遷

運輸部門を統合し独立

(株)日立製作所の輸送業務を請け負う物流子会社として、1950年2月に日東運輸(株)を創業し、特定貸切貨物自動車運送事業を開始しました。



海外進出

1976年にシンガポールで最初の海外拠点となる現地法人を設立し、1984年には航空運送事業にも進出しました。1985年7月、創業35年を機に、商号を(株)日立物流に変更しました。



システム物流(3PL)スタート

1986年にシステム物流の原形となるHB-TRINETのサービスをアパレル顧客向けに開始しました。その後対象分野を流通業向けなどに拡大し、物流業務を一括受託する、大型3PLへ参入しました。



M&Aでの拡大戦略

国内では業界プラットフォーム、海外ではネットワーク拡大をめざし、2007年の(株)資生堂の物流子会社譲り受けをはじめ、2013年までに主に計15社のM&Aを実施。事業規模を大きく拡大しました。



協創戦略 LOGISTEED推進

2016年にSGホールディングス(株)、2018年に日立キャピタル(株)(現三菱HCキャピタル(株))や(株)エーアイティーなどさまざまな企業との提携・協業により協創領域を拡大しました。

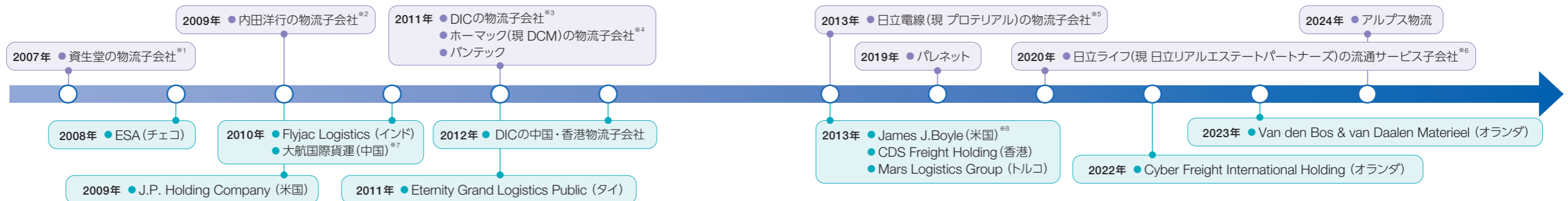


「ロジスティード」としてスタート

2023年4月にロジスティード(株)へ商号を変更し、Kohlberg Kravis Roberts & Co. L.P.との強固なパートナーシップにより「グローバル3PLリーディングカンパニー」をめざし、さまざまな施策に取り組んでいます。



近年実施した主なM&A



※1 ロジスティード東日本(株)(旧 ロジスティードコラポネクト(株))
 ※2 ロジスティード東日本(株)(旧 日立物流オリエンロジ(株))

※3 ロジスティードケミカル(株)(旧 日立物流ファインネクト(株))
 ※4 ロジスティード北日本(株)(旧 ダイレックス(株))

※5 ロジスティード東日本(株)(旧 日立物流フロンティア(株))
 ※6 ロジスティード東日本流通サービス(株)(旧 (株)日立物流東日本流通サービス)

※7 LOGISTEED China, Ltd.
 ※8 LOGISTEED America, Inc.

Our Business At a Glance

ロジスティードグループは、3PL事業とフォワーディング事業、重量機工事業からなるスマートロジスティクスで、国内外に広がるネットワークと豊富な実績のもと、お客様の多様な物流ニーズにワンストップでお応えし、グローバルサプライチェーンにおいて最も選ばれるソリューションプロバイダとなることをめざしています。

国内外に広がるネットワークや先駆者ならではの豊富な実績とノウハウを駆使し、安全・品質・生産性に優れた総合物流サービスを社会に提供しています。

価値協創基盤 (2025年3月31日現在)

会社数^{※1}・事業拠点^{※2}

122社
1,003拠点

国内：28社・463拠点／海外：94社・540拠点

物流センター面積^{※2}

919万m²

国内：608万m²／海外：311万m²

グループ人員^{※3}

56,227名

国内：34,564名／海外：21,663名

車両保有台数
(リース車含む)

合計 **23,369**台

トラック^{※4}:6,187台 フォークリフト:6,893台
トレーラ:7,813台 その他^{※5}:2,476台

2024年度 業績概況

売上収益

9,107億円

前年度比

14%増

調整後営業利益^{※6}

485億円

前年度比

25%増

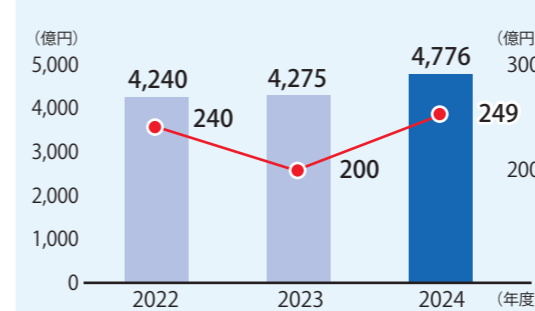
※1 会社数は、持分法適用関連会社を含む
 ※2 事業拠点・物流センター面積は、エアィティグループ、HTB-BCDトラベルグループを除く
 ※3 人員数は、持分法適用関連会社人員を除く
 ※4 トラック:トラック・バンを含む
 ※5 その他:バス・乗用車等を含む
 ※6 「調整後営業利益」は、営業利益からその他の収益を減算し、その他の費用、企業結合により識別した無形資産の償却費および株式報酬費用(業績連動型株式報酬制度に係るものを除く)を加算して算出

詳細はWebサイトをご参照ください [財務ハイライト](https://www.logisteed.com/jp/ir/financial/financialhighlights/)

MD&A (経営者による経営成績等の状況の分析) <https://www.logisteed.com/jp/ir/library/annual/pdf/mda.pdf>

2024年度 セグメント別概況&事業概要

国内物流



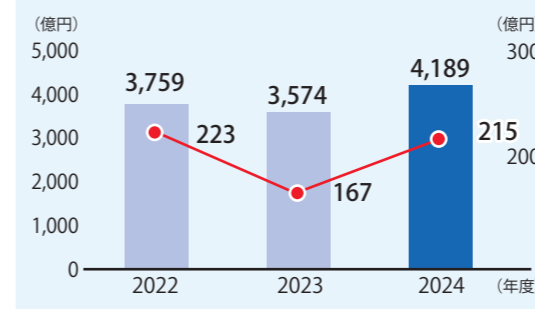
売上収益 **前年度比 +12%**

国内物流の売上収益は、受託領域拡大や新規受注案件の寄与等に加えて、2024年10月11日付での(株)アルプス物流の連結化により、前年度に比べ12%増加し、4,775億74百万円となりました。

セグメント利益 **前年度比 +25%**

セグメント利益は、増収影響や生産性向上等により、前年度に比べ25%増加し、249億26百万円となりました。

国際物流



売上収益 **前年度比 +17%**

国際物流の売上収益は、取り扱い物量の増加や新規受注案件の寄与や為替影響等に加えて、2024年10月11日付での(株)アルプス物流の連結化により、前年度に比べ17%増加し、4,188億65百万円となりました。

セグメント利益 **前年度比 +29%**

セグメント利益は、増収影響や為替影響等により、前年度に比べ29%増加し、215億28百万円となりました。

3PL事業

セグメント: 国内物流・国際物流

調達物流サービス/生産物流サービス/販売物流サービス/静脈物流サービス/自動車部品物流



フォワーディング事業

セグメント: 国際物流

国際航空輸送/国際海上輸送/国際トラック輸送/国際鉄道輸送



重量機工事業

セグメント: 国内物流・国際物流

プラント関連輸送/機械・機器設備輸送/鉄道関係設備輸送/精密機器輸送/各種研究設備輸送



Our Business

3PL事業

サービス内容と提供価値

● 調達物流

仕入れ品の引き取りから検収・保管・供給までを一貫して行います。ベンダー在庫管理方式(VMI)や部品の組立・塗装、生産ラインへの供給など、高付加価値なサービスを提供しています。

● 生産物流

資材や製品の管理・包装・発送など、製造工程におけるさまざまな物流業務を展開しています。包装の専門家による製品特性・物流条件に応じた最適な包装ソリューションも提供しています。



圧縮試験

● 販売物流

拠点配置や在庫の最適化など、サプライチェーンの設計段階から包括的にサポートします。最新技術を駆使した効率的なサプライチェーンを設計、運営し、お客様の受注・販売拡大を支援しています。

● ソリューション

情報通信機器向けに物流とCE*を融合したサービスや、危険物・化学品向けの共同物流サービスなど、付加価値の高いソリューションを多数提供しています。



t-Sort

● 静脈物流

顧客満足度を高める円滑な返品サービス、リユースやリサイクルをめざした回収サービス、高度な専門知識と技術を要する廃棄物処理サービスなどの提供を通じ、循環型社会の実現に取り組んでいます。

● VAS*

各バリューチェーンにおいて従来の物流領域を超えてお客様に付加価値を提供しています。お客様のニーズをくみ取り、トータルコスト削減やコア業務への集中を実現していきます。



キットイング

*CE: Customer Engineerの略。情報通信機器の設定・動作確認などの作業を行う
* Value Added Servicesの略。付加価値サービスのことを表し、調達・生産・出荷・販売・サービスの顧客バリューチェーンにおける物流周辺業務に当社グループのサービスを提供すること

2024年度のトピックス

● アルプス物流グループ化

2024年10月にアルプス物流がグループに加わりました。アルプス物流の持つ電子部品物流事業に関する専門知識やノウハウと当社の物流ネットワークを掛け合わせることで、お客様への提供価値のさらなる向上をめざしていきます。

● スペイン: 物流センター開設

バルセロナ近郊において主要顧客の欧州全域のサプライチェーン運営を合理化し、サービス提供の向上をサポートするためのセントラル倉庫を設立しました。欧州内の物流ネットワークの要所として、保管や配送を効率化していきます。



タイ: テパラックロジスティクスセンター

● タイ: 物流センター開設

国際空港にも近いバンコク近郊において、異なる温度帯に対応できるテパラックロジスティクスセンターを開設しました。立地上、輸配送拠点としても利便性の高いセンターであり、幅広い産業分野のサプライチェーン効率化に貢献していきます。

● 京都: 危険物倉庫開設

亀岡市に7棟の危険物倉庫群からなる危険物の取り扱いに特化した物流センターを開設しました。化学品、化粧品、医療品、リチウム電池など、多様な産業分野における危険物特有の要件に対応し、お客様のサプライチェーンの強化に貢献していきます。



関西第三メディカル物流センター

● 兵庫: メディカル物流センター開設

西日本地区におけるメディカルプラットフォームセンターとして、関西第三メディカル物流センターを兵庫県三田市に開設しました。高度化する医薬品物流の需要拡大などお客様のニーズに応え、高品質なメディカル物流ネットワークの強化を進めていきます。

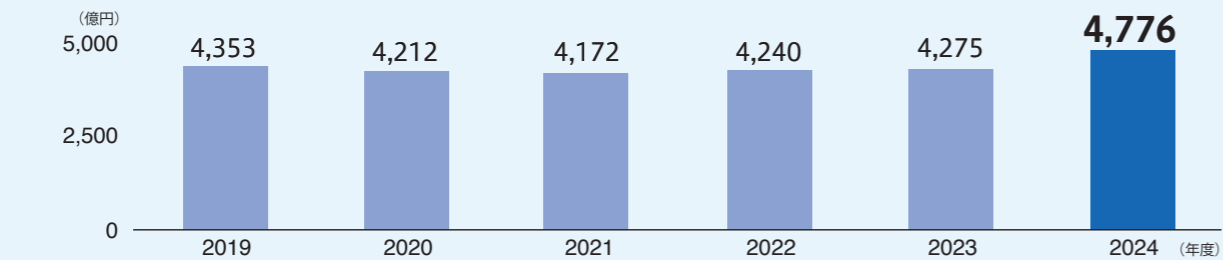
● AutonMate導入

倉庫全体の生産性向上を目的とした取り組みの一環として、グループ会社が開発した自律移動型協働ロボット「AutonMate (オートンメイト)」を千葉県物流センターに16台導入しました。作業動線最適化による省人化施策を進めていきます。

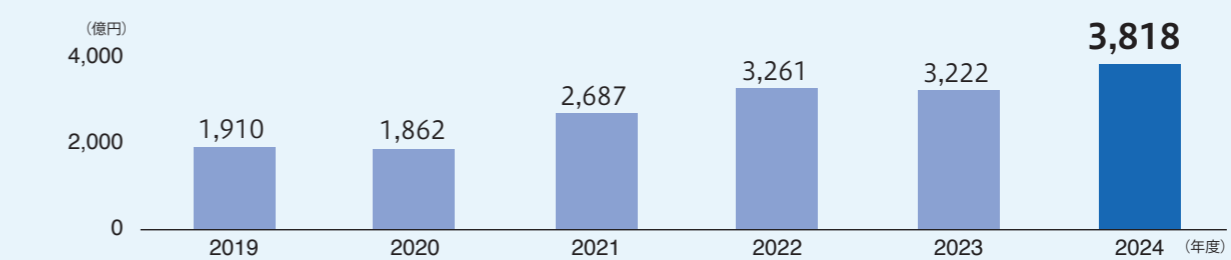


AutonMate

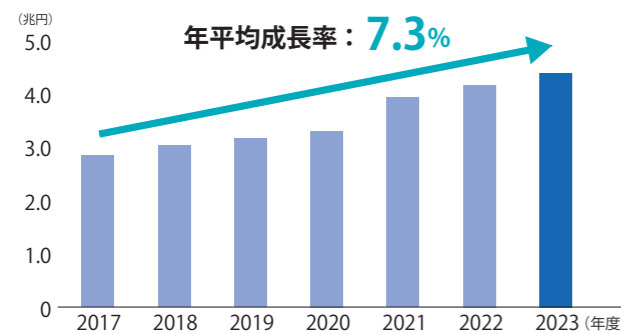
売上推移(国内)



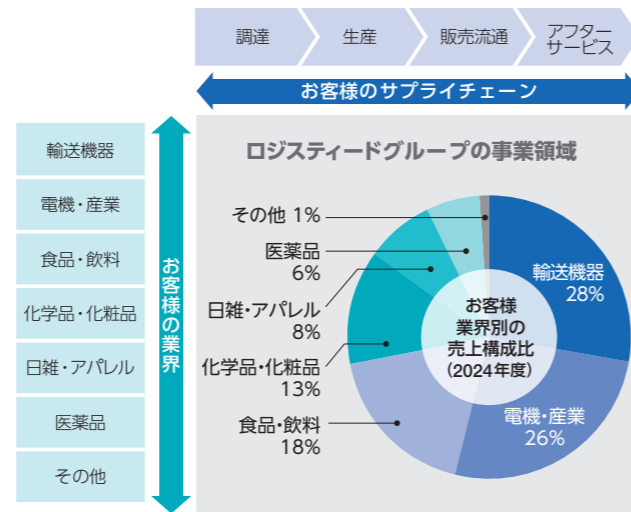
売上推移(海外)



国内3PL市場規模推移

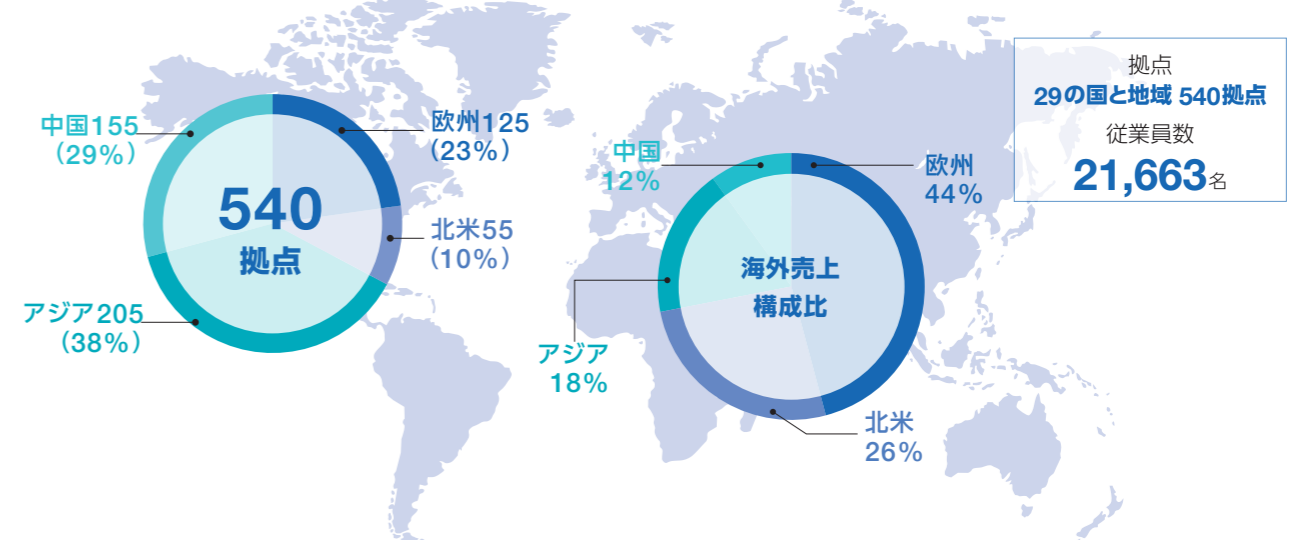


※「月刊ロジスティクス・ビジネス」2024年9月号より引用し当社作成
当社は、2023年度国内3PL売上高ランキング1位



※海外含むロジスティクスグループ売上上位65社の顧客データより作成

海外地域別売上構成比・拠点数(2024年度)



Our Business

フォワーディング事業

当社グループのグローバルネットワークと深い専門性を駆使し、航空・海上・トラック・鉄道などの輸送モードをシームレスに統合することで、お客様の多様なニーズに対応いたします。

サービス内容と提供価値

● 航空輸送

緊急輸送からコストを抑えた柔軟なスケジューリングまで、お客様のニーズに応じて最適な航空輸送サービスを提供しています。輸送中の貨物の損傷や紛失リスクを軽減するため、積載効率を最適化し、安全性を確保する包装ソリューションもご提案します。

● 海上輸送

FCL (Full Container Load)、LCL (Less than Container Load)をはじめ、パイヤーズ・コンソリデーション(BCN)や貨物管理サービス(FMS)など、さまざまなサービスを提供しています。特殊コンテナや大型貨物にも対応し、多様なニーズに応じた円滑かつ迅速、効率的な輸送を実現しています。



航空輸送/海上輸送

● クロスボーダー

国境が隣接する地域でスムーズな国際陸上輸送を実現する「クロスボーダー」。ロジスティクスグループのネットワークを活かし、自社トラックと提携パートナーのサービス網を組み合わせ、米国・メキシコ、ASEAN、東欧各国間で高品質な輸送を提供しています。

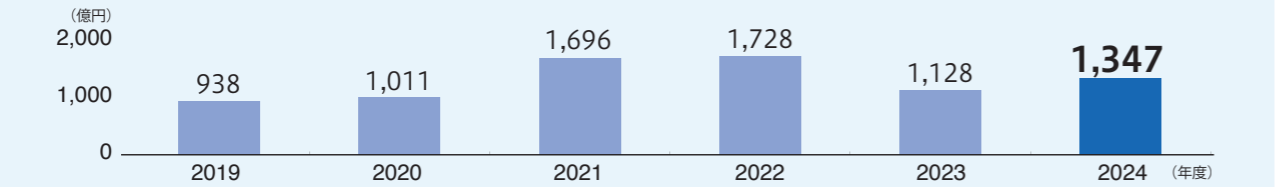
● インターモーダル

航空・海上・トラック・鉄道などの異なる輸送モードを組み合わせる「インターモーダル」により、効率的で環境に優しい輸送を提供しています。海上と航空、あるいは鉄道といった複数の輸送モードを組み合わせることで、スピードとコストのバランスを最適化します。



インターモーダル

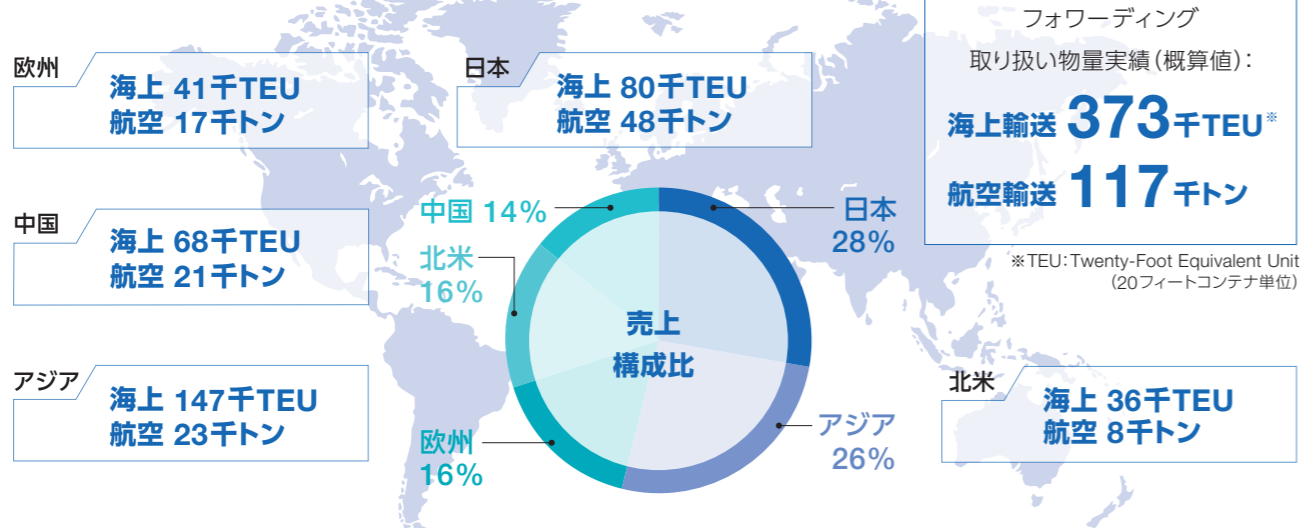
売上推移



2024年度のトピックス

- 体制強化による「One LOGISTEED」の推進
2024年度、フォワーディング事業戦略本部を新設し、顧客や事業領域を横断したグローバルな営業組織の連携を強化しました。今年度は専任の営業部署を新設し、従来以上にスピード感をもって多様なお客様のニーズに対応できる体制を整えています。
- Freight Forwarding Committee (FFC)を発足
国内外の主要フォワーディング事業会社が参加するFFC (Freight Forwarding Committee)を立ち上げ、各国間における新規顧客・レーンの開拓や、購買組織体制の構築に向けた協議を重ねてきました。
- 外国籍役員の登用
2024年11月、フォワーディング事業のさらなる成長に向けて、業務執行役員 (International Head of Freight Forwarding)としてアキール・ナイルが着任しました。

地域別売上構成比・取り扱い物量 (2024年度)



重量機工事業

電力プラント、産業機械、鉄道車両をはじめとする重量品から、繊細な取り扱いを必要とする精密機械、医療機器等まで、国内外を問わず出荷から輸送・据付までの一貫物流サービスを提供しています。

サービス内容と提供価値

● 電力プラント

火力・風力など各種発電所や変電所向けの大型機器 (タービン、変圧器など) の輸送ニーズにお応えします。プラントの設置場所が内陸部や沿岸部など複雑な条件下にある場合でも、長年の実績と高度な輸送計画力を活かし、安全かつ高品質な輸送と現地での搬入・据付を実現します。

● 交通インフラ

新幹線やその他高速鉄道、近郊電車、モノレールなどの車両本体だけでなく、駅ホーム柵などの関連機器類や各種保守パーツの輸送・据付など、交通インフラにおける多種多様な物流ニーズに、豊富な実績と特殊なノウハウ、そして国内外に広がるネットワークでお応えします。



台湾向け鉄道車両輸送

● 産業プラント

圧延機、集塵装置等の大型プラント設備やタンク類、コンベヤ、エレベータ・エスカレータなどの建設関連設備を取り扱っています。綿密な輸送計画と作業計画、そして特殊貨物に関する高度な専門技術で、お客様の現場まで安全に納入・設置します。

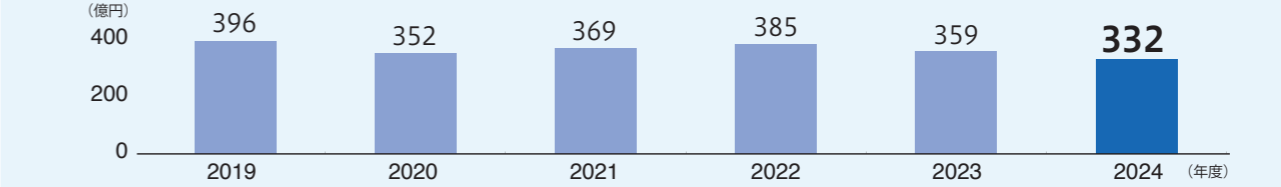
● 輸送据付

多種多様な機械設備の搬出から、輸送、搬入、据付に至るまで、豊富な実績に裏打ちされた高度な技術力と専門性を有します。梱包作業からフォワーディング、保管といった物流業務に関わる一連の作業を包括的にワンストップでお任せいただけます。



乾溜ガス化燃焼プラント設備据付

売上推移



2024年度のトピックス

- 全国各地における半導体新工場向け設備一貫輸送および据付作業の実施 (設備全般および半導体製造装置の一時保管、現地輸送、搬入・据付)
- 産業廃棄物処理プラント設備、工場での仮組、現地輸送、搬入・据付作業の実施
- 大型物流センター向け自動搬送装置の搬入・据付作業の実施
- 国内・海外 (北米・中東・欧州他) 向け発電・送変電設備の海上輸送および一貫輸送の実施 (継続中)
- アジア・北中南米向け鉄道車両輸送の実施 (継続中)
- 洋上風力、インフラ関連設備の特殊輸送における取り組みを推進

売上構成比 (2024年度)

